SONY

2-186-445-02 (1)

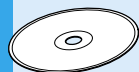
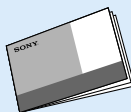
取扱説明書

サイバーショット基本編

⚠警告 電気製品は安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。

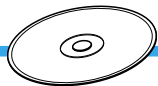
この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。**この取扱説明書と別冊の「サイバーショット応用編／困ったときは」、「安全のために」をよくお読みのうえ、**製品を安全にお使いください。お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

DSC-L1

楽しみかたは、CD-ROMのムービーをご覧ください。

使いかたムービー「Cyber-shot Life」
*** Windowsのみ対応***

応用的な内容は、別冊取扱説明書をご覧ください。

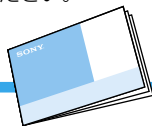
「サイバーショット応用編／困ったときは」

サイバーショットを楽しむために

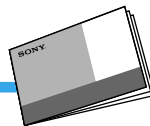
本機の取扱説明書にはこの基本編と別冊の応用編があります。また、付属のCD-ROMで使いかたムービーを見ることもできます。まず、基本編の操作をマスターしてから応用編に進んでください。

楽しさを知る

「Cyber-shot Life」ムービー（CD-ROM）

準備から活用まで。サイバーショットの楽しみかたをムービーで紹介します。付属のCD-ROMをパソコンで再生して、ご覧ください。

* Windowsのみ対応

基本をマスター

「サイバーショット基本編」（本書）

静止画を撮影して再生する基本操作を順を追って説明しています。画像を削除したり、パソコンに取り込む手順なども説明しています。

いろいろなテクニックをマスター

「サイバーショット応用編／困ったときは」（別冊）

いろいろな静止画と動画の撮影・再生・編集のしかたや、困ったときの解決方法を説明しています。

目次

準備する

静止画を撮る

静止画を見る

静止画を削除する

静止画をパソコンに取り込む

索引

別冊の「サイバーショット応用編／困ったときは」について

「サイバーショット応用編」では、静止画の応用的な使いかたや、動画の撮影方法などを説明しています。

また、**「困ったときは」**（52 ～ 61ページ）では、本機を操作していて困ったときの代表的な対処方法を説明しています。

「サイバーショット応用編／困ったときは」に操作方法などの詳しい説明が載っている場合、本書では「**別冊応用編** ➡ ページ番号」のようにご案内しています。

はじめにお読みください

ためし撮り

必ず事前にためし撮りをして、正常に記録されていることを確認してください。

撮影内容の補償はできません

万一、カメラや記録メディアなどの不具合により撮影や再生がされなかった場合、画像や音声などの記録内容の補償については、ご容赦ください。

バックアップのおすすめ

万一の誤消去や破損にそなえ、必ず予備のデータコピーをおとりください。

画像の互換性について

- 本機は、(社)電子情報技術産業協会(JEITA)にて制定された統一規格“Design rule for Camera File system”に対応しています。
- 本機で撮影した画像の他機での再生、他機で撮影／修正した画像の本機での再生は保証いたしません。

著作権について

あなたがカメラで撮影したものは、個人として楽しむほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。なお、実演や興業、展示物などの中には、個人として楽しむなどの目的があっても、撮影を制限している場合がありますのでご注意ください。

電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会(VCCI)の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。
取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

本機に振動や衝撃を与えないでください！

誤作動したり、画像が記録できなくなるだけでなく、“メモリースティック デュオ”が使えなくなったり、撮影済みの画像データが壊れることがあります。

液晶画面、液晶ファインダー(搭載機種のみ)およびレンズについて

- 液晶画面や液晶ファインダーは有効画素99.99%以上の非常に精密度の高い技術で作られていますが、黒い点が現れたり、白や赤、青、緑の点が消えないことがあります。これは故障ではありません。これらの点は記録されませんので安心してお使いください。
- 液晶画面や液晶ファインダー、レンズを太陽に向けたままにすると故障の原因になります。窓際や屋外に置くときはご注意ください。
- 液晶画面を強く押さないでください。画面にムラが出たり、液晶画面の故障の原因になります。

- 寒い場所でご使用になると、画像が尾を引いて見えることがありますが、故障ではありません。

可動式レンズについて

本機は可動式レンズを採用しております。レンズ部をぶつけたり、無理な力をかけないようご注意ください。

レンズカバーについて

本機のレンズカバーは電源の入／切の際、自動的に開閉します。開閉時に指をはさまないようにご注意ください。またレンズカバーを無理に開けないでください。故障の原因になります。

フラッシュの表面の汚れは取り除いてご使用ください！

発光による熱でフラッシュ表面の汚れが変色したり、貼り付いたりすると、フラッシュが充分な量を発光できない場合があります。

水や湿気にご注意ください！

雨の日などに屋外で撮影するときは、本機を濡らさないようにご注意ください。水滴が内部に入り込むと、故障の原因になるだけでなく、修理できなくなることもあります。
結露が起きたときは、結露を取り除いてからご使用ください（**別冊応用編** ➡ 74ページ）。

砂やほこりにご注意ください！

砂やほこりの舞っている場所でのご使用は故障の原因になります。

日光および強い光に向けて本機を使用しないでください！

目に回復不可能なほどの障害をきたすおそれがあります。また故障の原因にもなります。

使用する場所について

強力な電波を出すところや放射線のある場所あるいは強力な磁気のある場所で使わないでください。正しく撮影・再生ができないことがあります。

カール ツァイスレンズ搭載

本機はカール ツァイスレンズを搭載し、シャープで、コントラストが良い画像を作りだすことを可能にしました。本機用に生産されたレンズは、ドイツ カール ツァイスの品質基準に基づき、カール ツァイスによって認定された品質保証システムにより生産されています。

本書中の画像について

画像の例として本書に掲載している写真はイメージです。本機を使って撮影したものではありません。

表示言語について

本機のメニュー項目や警告などの表示は、日本語のみに対応しております。

本機をお使いになる前にお読みください

本機と対応する“メモリースティック”

本機で使用するIC記録メディアは“メモリースティック　デュオ”（“Memory Stick Duo”）です。
“メモリースティック”のサイズには2種類あります。お使いのサイバーショットに適した“メモリースティック”のサイズをお選びください。

“メモリースティック　デュオ”（本機で使用するサイズ）

“メモリースティック”

- “メモリースティック　デュオ”について詳しくは、**別冊応用編** ➡ 75ページをご覧ください。
- “メモリースティック　PRO”、“メモリースティック　PRO　デュオ”は“メモリースティック　PRO”対応機器でのみ使用可能です。
- 本機での記録枚数については、21ページまたは**別冊応用編** ➡ 66ページをご覧ください。

“メモリースティック　デュオ”を“メモリースティック”対応機器で使用する場合

必ず“メモリースティック　デュオ”を付属のメモリースティック　デュオ　アダプターに入れてからお使いください。

メモリースティック　デュオアダプター

InfoLITHIUM（インフォリチウム）バッテリー

初めてお使いになるとき

付属のバッテリー NP-FT1を必ず充電してください（11ページ）。

再充電について

バッテリーを使い切らない状態でも充電できます。また充電が完了しなくても途中まで充電した容量分はお使いいただけます。

バッテリーを長持ちさせるには

長時間使用しない場合は、機能を維持するために本機で使い切った後、バッテリーを取りはずして湿度の低い涼しい場所で保管してください（**別冊応用編** ➡ 77ページ）。

- InfoLITHIUM（インフォリチウム）バッテリーについて詳しくは、**別冊応用編** ➡ 77ページをご覧ください。

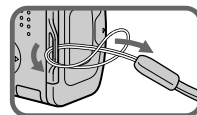
商標について

- Cyber-shotはソニー株式会社の商標です。
- "Memory Stick"、"メモリースティック"、MEMORY STICK ™、"Memory Stick PRO"、"メモリースティック　PRO"、MEMORY STICK PRO、"Memory Stick Duo"、"メモリースティック　デュオ"、MEMORY STICK DUO、"Memory Stick PRO Duo"、"メモリースティック PRO デュオ"、MEMORY STICK PRO DUO、"MagicGate"、"マジックゲート"およびMAGICGATEはソニー株式会社の商標です。
- "InfoLITHIUM（インフォリチウム）"はソニー株式会社の商標です。
- Picture Packageはソニー株式会社の商標です。
- Microsoft、Windows、Windows Media、DirectXは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。
- Macintosh、Mac OS、QuickTime、iMac、iBook、PowerBook、Power Mac、eMacはApple Computer, Inc.の登録商標または商標です。
- MacromediaおよびFlashはMacromedia Inc.の米国およびその他の国における商標または登録商標です。
- Intel、MMX、PentiumはIntel Corporationの登録商標または商標です。
- その他、本書に記載されているシステム名、製品名は、一般に各開発メーカーの登録商標あるいは商標です。なお、本文中には™、®マークは明記していません。

各部のなまえ

カッコ内の数字はページ数です。

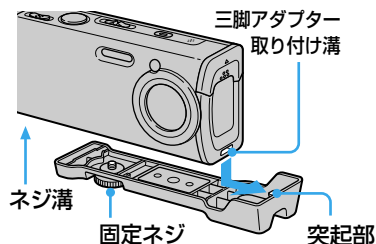
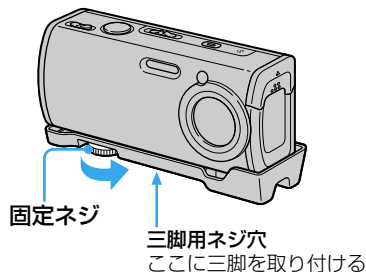
別冊の「**サイバーショット応用編／困ったときは**」に操作方法などの詳しい説明が載っている場合、本書では「**別冊応用編** ➡ ページ番号」のようにご案内しています。

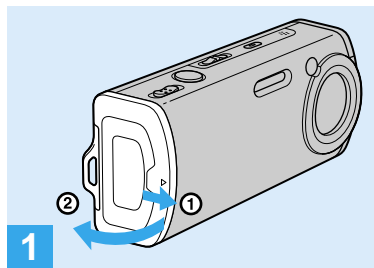
スピーカー
液晶画面
画面上の表示については、別冊応用編 ➡ 81〜84ページをご覧ください。
/ （画像サイズ／削除）ボタン（19、40）
（画面表示／LCDバックライトオン／オフ）ボタン（26）
MENU（メニュー）ボタン（別冊応用編 ➡ 4、67）
コントロールボタン
メニューオン時：▲/▼/◀/▶/●（15）
メニューオフ時：/ / / （29、28、25、別冊応用編 ➡ 13）
内蔵電池カバー
充電式ボタン電池が内蔵されています。
絶対に開けないでください。
故障の原因になります。
/CHG（チャージ）ランプ（オレンジ）（12）
バッテリー／"メモリースティックデュオ"カバー
バッテリー取りはずしつまみ（12）
RESET（リセット）ボタン（別冊応用編 ➡ 52）
アクセスランプ（18）
ネックストラップ取付部
落下防止のため、ストラップを取り付けることをおすすめします。
ネックストラップの取り付けかた

三脚を取り付けるには

三脚に本機を固定して撮影すると、手ぶれの少ないきれいな画像に仕上がります。本機に三脚を取り付けるには、まず三脚アダプターを取り付けてください。

- **本機に直接三脚を取り付けることはできません。**

三脚アダプターを取り付ける

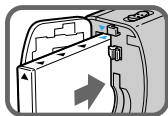
1 三脚アダプター取り付け溝に三脚アダプターの突起部を合わせ差し込む。

2 固定ネジが、本機のネジ溝と合っていることを確認したら、固定ネジを回す。
三脚アダプターが本機に固定されます。

- 三脚の取り付けかたについては、お使いになる三脚に付属の取扱説明書をご覧ください。
- 三脚を取り付けるときは、ネジの長さが5.5mm未満の三脚をお使いください。ネジの長い三脚ではしっかり固定できず、本機を傷つけることがあります。
- 固定ネジの先端で本機を傷つけないようご注意ください。

バッテリーを充電する

➡ バッテリー／"メモリースティック デュオ"カバーを開ける

矢印の方向にスライドさせると開きます。

➡ バッテリーを入れて、バッテリー／"メモリースティック デュオ"カバーを閉める

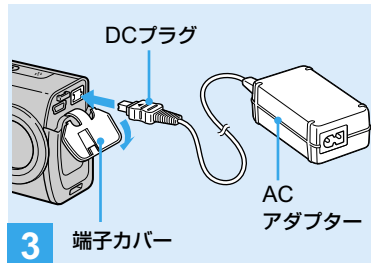
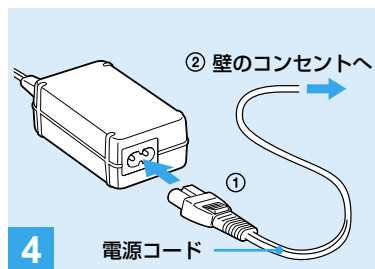
バッテリーが奥まで確実に入ったことを確かめてからカバーを閉めてください。

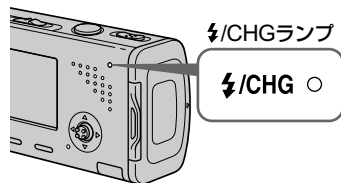
バッテリー挿入口について

バッテリー挿入口の▲マークの頂点とバッテリー側面の▲マークの頂点を合わせるように挿入してください。

➡ 端子カバーを開け、ACアダプター(付属)のケーブルを本機のDC IN端子につなぐ

DCプラグの▲マークの付いている面を上側にしてつなぎます。

- **バッテリーを充電するときは、必ず本機の電源を切ってください(15ページ)。**
- 本機の電源には"インフォリチウム"バッテリー(Tタイプ)NP-FT1(付属)を使用します。Tタイプ以外のバッテリーはお使いになれません(**別冊応用編** ➡ 77ページ)。

- バッテリーの先端でバッテリー取りはずしつまみをカメラ正面側に押しながらバッテリーを入れると、簡単に入ります。

- ACアダプターのDCプラグを金属類でショートさせないでください。故障の原因になります。
- ACアダプターのDCプラグを汚れたまま使わないでください。汚れは乾いた綿棒などで拭き取ってください。
汚れたままご使用になると、正しく充電されないことがあります。

➡ 電源コードをACアダプターと壁のコンセントにつなぐ

充電が始まり、ϟ/CHGランプが点灯します。

充電が終わるとϟ/CHGランプが消えます。

- バッテリーの充電が終わったら、ACアダプターを本機のDC IN端子と壁のコンセントから取りはずしてください。

バッテリー残量時間表示

撮影/再生可能な残り時間とバッテリー残量が液晶画面に表示されます。

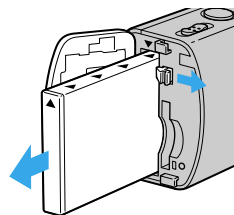
- 使用状況や環境によっては、正しく表示されない場合があります。

充電時間

使い切ったバッテリーを温度25℃の環境でACアダプターで充電したときの時間です。

バッテリー	充電時間
NP-FT1(付属)	約150分

- 使用状況や環境によって充電時間が長くなる場合があります。

バッテリーを取り出すには

バッテリー/"メモリースティック デュオ"カバーを開け、バッテリー取りはずしつまみを矢印の方向に押して取り出してください。

- 取り出すときは、バッテリーが落下しないようにご注意ください。

バッテリーの使用時間と撮影／再生可能枚数

次の表は撮影モードを[通常撮影]にし、充電した付属のバッテリーで温度25℃の環境で使用した場合の目安です。また、撮影／再生枚数は“メモリースティック　デュオ”を交換しながら撮影／再生したときの目安です。ご使用の状況によって記載より少ない数値になる場合があります。

- 使用回数を重ねたり、時間が経過するにつれバッテリーの容量は低下します（**別冊応用編** ➡ 78ページ）。

静止画を撮影するとき

標準撮影[1]

画像サイズ	NP-FT1（付属）		
	LCDバックライト	撮影枚数	使用時間
4M	オン	約240枚	約120分
	オフ	約280枚	約140分
VGA（Eメール）	オン	約240枚	約120分
	オフ	約280枚	約140分

[1] 以下の設定で撮影
- [画質アイコン]（画質）を[ファイン]にする
- 30秒ごとに1回撮影
- 1回ごとにズームをW側、T側に交互にいっぱいにする
- 2回に1度、フラッシュを発光する
- 10回に1度、電源を入／切する
- [AFモード]を[シングル]にする

測定方法はCIPA規格による。
（CIPA：カメラ映像機器工業会、Camera & Imaging Products Association）

静止画を再生[2]するとき

画像サイズ	NP-FT1（付属）	
	再生枚数	使用時間
4M	約5200枚	約260分
VGA（Eメール）	約5200枚	約260分

[2] 約3秒ごとにシングル画面で順番に再生

動画を撮影[3]するとき

NP-FT1（付属）	
LCDバックライトオン	LCDバックライトオフ
約100分	約120分

[3] 画像サイズが[160]の場合の連続撮影

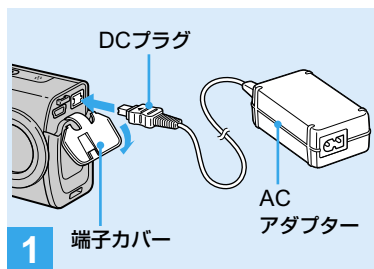
- 次のような場合は使用時間と撮影／再生枚数は、表示よりも少なくなります。
  - 周囲が低温のとき
  - フラッシュ使用時
  - 電源の入／切を繰り返したとき
  - ズームを多用したとき
  - [LCDバックライト]が[明]になっているとき
  - [AFモード]が[モニタリング]のとき
  - バッテリーの容量が低下したとき

ACアダプターで使う

DCプラグ

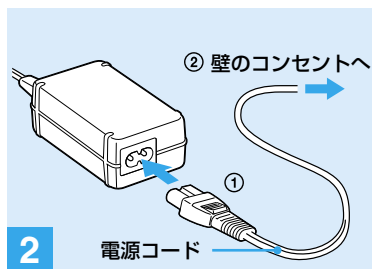
ACアダプター

端子カバー

1

→ 端子カバーを開け、ACアダプター（付属）のケーブルを本機のDC IN端子につなぐ

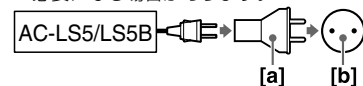
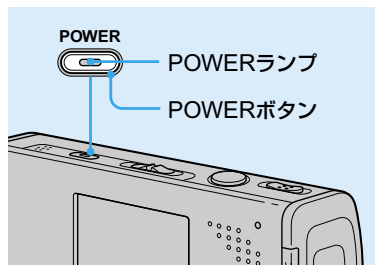
DCプラグの▲マークの付いている面を上側にしてつなぎます。

→ 電源コードをACアダプターと壁のコンセントにつなぐ

- ACアダプターは、お手近なコンセントにつないでください。使用中、不具合が生じたときは、すぐにコンセントからプラグを抜き、電源を遮断してください。
- ACアダプターを壁との隙間などの狭い場所に設置しないでください。
- 使い終わったら、ACアダプターを本機のDC IN端子と壁のコンセントから取りはずしてください。

海外で使うときは

海外のコンセントの種類

壁のコンセントの形状例	変換プラグアダプター
主に北米など	不要です。
主にヨーロッパなど	

- ACアダプター／電源コード（付属）は、全世界の電源（AC 100 V ～ 240 V・50/60 Hz）でお使いいただけます。
- 下図のように、ACアダプター／電源コードを差し込む変換プラグアダプター **[a]** が必要になる場合があります。

- 変換プラグアダプター **[a]** ／電源コンセント **[b]** の形状は旅行先の国や地域によって異なります。あらかじめ、旅行代理店などでおたずねの上、ご用意ください。
- 電子式変圧器（トラベルコンバーター）は故障の原因となるので使わないでください。

電源を入れる／切る

➡ POWERボタンを押して、電源を入れる

POWERランプが緑色に点灯し、電源が入ります。初めて電源を入れたときは、時計設定画面が表示されます（16ページ）。

電源を切る

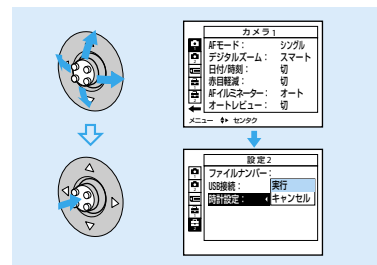
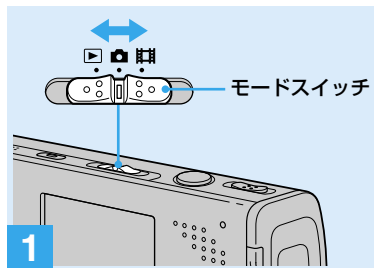
POWERボタンを再び押すと、POWERランプが消え、電源が切れます。

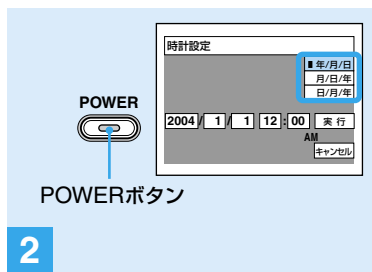
- **バッテリーやACアダプターを抜くなどして、レンズが出た状態で長時間放置しないでください。故障の原因になります。**
- モードスイッチが「📷」または「🎞」になっているとき、電源を入れると、レンズ部が動きます。レンズ部に触れないようにご注意ください。

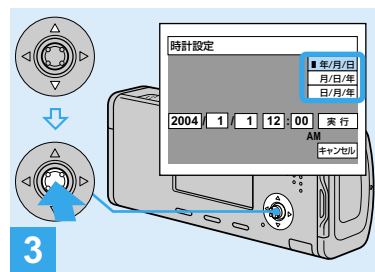
オートパワーオフ機能

バッテリーを使って、撮影、再生またはセットアップを行っているとき、本機の電源を入れたまま約3分間操作をしないと、バッテリーの消耗を防ぐため、自動的に電源が切れます。ただし、バッテリー使用中でも、下記の場合はオートパワーオフ機能は働きません。

- 動画再生時
- スライドショー実行時
- USBケーブル接続時

コントロールボタンについて

本機の設定を変えるときは、液晶画面にメニューやセットアップ画面（**別冊応用編** ➡ 5ページ）を表示させ、コントロールボタンを使って操作します。
メニューの項目を設定するときは、コントロールボタンの▲/▼/◀/▶の方向に動かして、項目や設定を選び、決定します。
セットアップの項目を設定するときは、コントロールボタンの▲/▼/◀/▶の方向に動かして、項目や設定を選び、最後に中央の●を押して決定します。

日付／時刻を合わせる

➡ モードスイッチを「📷」にする

➡ POWERボタンを押して、電源を入れる

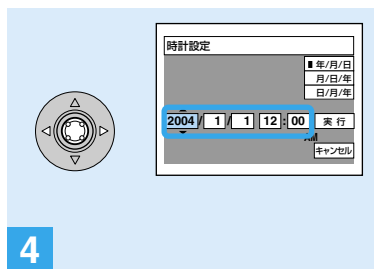
POWERランプが緑色に点灯します。
時計設定画面が表示されます。

➡ コントロールボタンを▲/▼に動かして年月日の表示順を選び、中央の●を押す

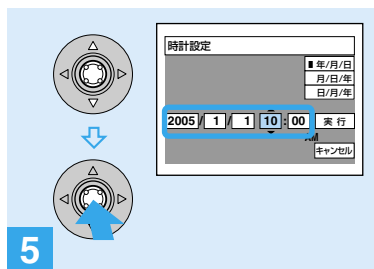
表示は、[年/月/日]、[月/日/年]、[日/月/年]の中から選びます。

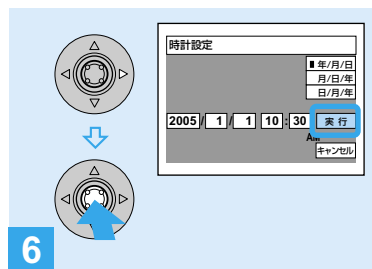
- 1度設定した日付、時刻を合わせ直すときは、セットアップ画面の[🧰](設定2)の[時計設定]を選び(別冊応用編 ➡ 5、72ページ)、手順3から行ってください。

- モードスイッチを「🎞」、「▶」の位置にしても操作できます。

- 時計の設定を記憶しておくための充電式ボタン電池(**別冊応用編** ➡ 74ページ)の残量が少なくなると、自動的に時計設定画面が表示されます。このときは手順3以降を行って日付、時刻を設定し直してください。

4

➡ コントロールボタンを◀/▶に動かして設定する年、月、日、時、分の項目を選ぶ

設定する項目の上下に▲/▼が表示されます。

➡ コントロールボタンを▲/▼に動かして数値を設定して、中央の●を押す

数値が確定され、次の項目に移ります。手順4と5を繰り返して、すべての項目を設定してください。

➡ コントロールボタンを▶に動かして[実行]を選び、中央の●を押す

日付・時刻が設定され、時計が動き始めます。

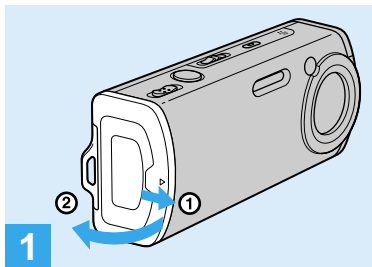
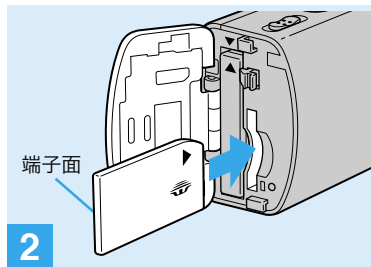
- 手順3で[日/月/年]を選んだときは、24時間表示で設定してください。
- 真夜中は12:00AM、正午は12:00PMと表示されます。

- 中止するときは、コントロールボタンを▲/▼/◀/▶に動かして[キャンセル]を選び、中央の●を押してください。

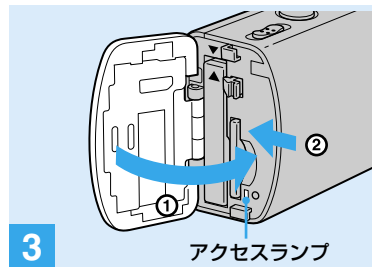
“メモリースティック　デュオ”を入れる／取り出す

➡ バッテリー／“メモリースティック　デュオ”カバーを開ける

矢印の方向にスライドさせると開きます。

- **本機をお使いになるときは、メモリースティック　デュオ　アダプター（付属）は必要ありません。**
- “メモリースティック　デュオ”については、**別冊応用編** ➡ 75ページをご覧ください。

➡ “メモリースティック　デュオ”を入れる

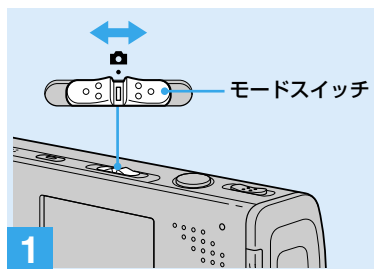
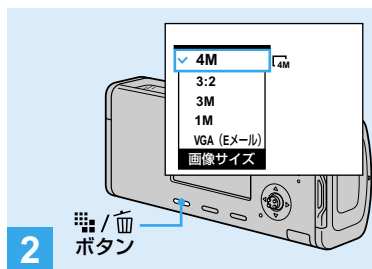
“メモリースティック　デュオ”を図の向きで「カチッ」と音がするまで差し込んでください。

- “メモリースティック　デュオ”を入れるときは、挿入方向をご確認のうえ奥まできちんと差し込んでください。正しく差し込まないと正常な記録、再生ができないことがあります。また、本機および“メモリースティック　デュオ”の破損の原因になることもあります。

➡ バッテリー／“メモリースティック　デュオ”カバーを閉める

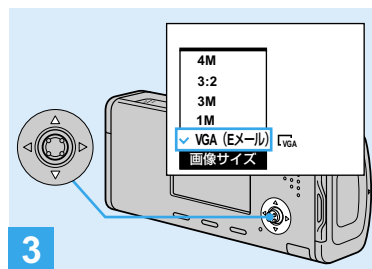
“メモリースティック　デュオ”を取り出すには

バッテリー／“メモリースティック　デュオ”カバーを開け、“メモリースティック　デュオ”を1回押して取り出してください。

- **アクセスランプが点灯しているときは、画像の記録中、読み出し中です。このとき、絶対に“メモリースティック　デュオ”を取り出したり、電源を切ったりしないでください。データが壊れることがあります。**

静止画の画像サイズを決める

➡ モードスイッチを「📷」にして、電源を入れる

➡ /🗑（画像サイズ）ボタンを押す

画像サイズが表示されます。

- 画像サイズについては、20ページをご覧ください。

➡ コントロールボタンを▲/▼に動かして希望の画像サイズを選ぶ

画像サイズが確定します。
設定が終わったら、/🗑（画像サイズ）ボタンを押してください。液晶画面から画像サイズの表示が消えます。

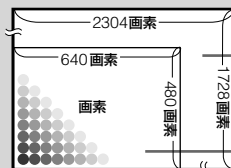
- ここで選んだ画像サイズの設定は、電源を切ったあとも保持されます。

画像サイズと画質について

撮影目的に合わせて、画像サイズ（画素数）と画質（圧縮率）を選ぶことができます。
画像サイズとは、画像を構成する画素[1]（点）の数を横×縦で表示したものです。たとえば、4M（2304×1728）という画像サイズの場合は、横に2304画素、縦に1728画素で表示されることになります。画素数が多いほど大きい画像サイズとなります。
画質は、圧縮率の違うファイン（高画質）とスタンダードから選ぶことができます。
画質をファインにし、画像サイズを大きくするほど、画像はきれいになりますが、記録するデータ容量が大きくなり、"メモリースティック　デュオ"に記録できる枚数は少なくなります。
右図を参考に、目的に合った画像サイズと画質をお選びください。

1) 画素はピクセルとも言います。
2) お買い上げ時は[4M]に設定されています。本機で最高の画質が撮れるサイズです。
3) 写真の印画紙、ポストカードなどと同じく3:2の横縦比で撮影します。

画像サイズのイメージ

本機の最大画像サイズと最小画像サイズを例に説明しています。

画像サイズと画質の用途例

画像サイズ		用途の目安
4M [2]（2304×1728）	大きい	● 大切な画像を保存したり、A4サイズプリントやA5サイズ高精細プリントする場合
3:2 [3]（2304×1536）	↕	
3M（2048×1536）		
1M（1280×960）		● 写真のL判でプリントする場合
VGA（Eメール）（640×480）	小さい	● より多くの画像を撮影する場合 ● Eメールへの画像添付やホームページ作成用の場合

画質（圧縮率）		用途の目安
ファイン	低圧縮（きれい）	● より良い画質で撮影またはプリントする場合
スタンダード	高圧縮（普通）	● より多くの画像を撮影する場合

静止画の記録枚数について

“メモリースティック　デュオ”1枚に記録できる枚数[1)]

枚数は、[画質]設定がファイン(スタンダード)[2)]の順で記載されています。

- 次の表は、本機でフォーマットした“メモリースティック　デュオ”に記録できる撮影枚数の目安です。　**(単位：枚)**

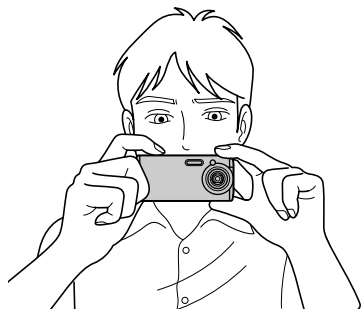
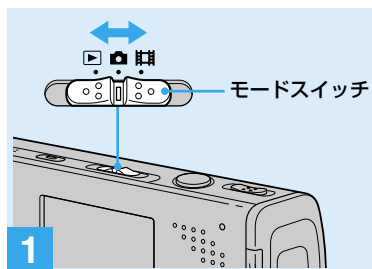
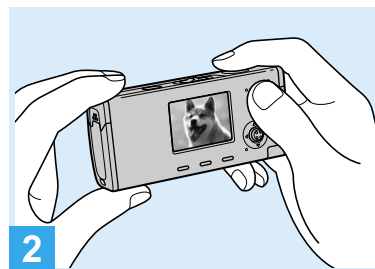
画像サイズ＼容量	16MB	32MB	64MB	128MB	256MB	512MB
4M	8 (14)	16 (30)	32 (60)	65 (121)	119 (216)	242 (440)
3:2	8 (14)	16 (30)	32 (60)	65 (121)	119 (216)	242 (440)
3M	10 (18)	20 (37)	41 (74)	82 (149)	148 (264)	302 (537)
1M	24 (46)	50 (93)	101 (187)	202 (376)	357 (649)	726 (1320)
VGA (Eメール)	97 (243)	196 (491)	394 (985)	790 (1975)	1428 (3571)	2904 (7261)

1) 撮影モードが[通常撮影]の場合。その他のモードの記録枚数は**別冊応用編** → 66ページをご覧ください。

2) 画質(圧縮率)の設定については**別冊応用編** → 5ページをご覧ください。

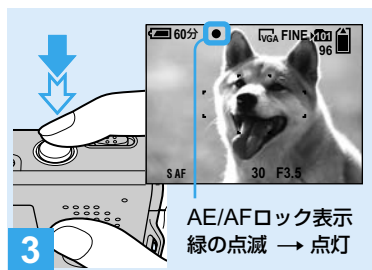
- 当社従来モデルで撮影された画像を再生したとき、実際の画像サイズと異なる表示になる場合があります。
- 本機の液晶画面で見るときはどの画像サイズでも同じ大きさに見えます。
- 記録枚数は、撮影モード、撮影状況、被写体によって数値と異なる場合があります。
- 撮影残枚数が9999枚より多いときは、画面に「>9999」と表示されます。
- 撮影した画像のサイズをあとで変えることもできます(リサイズ機能、**別冊応用編** → 27ページ)。

簡単に撮る—オート撮影

本機の正しい構えかた

本機で撮影するときは、レンズ部、フラッシュ発光部、マイクや⚡/CHGランプ（8ページ）に指がかからないようにしてください。

➡ モードスイッチを「📷」にして、電源を入れる

➡ 両手でカメラを構え、被写体をフレーム中央部におさめる

- レンズカバーはモードスイッチが「📷」または「🎞」のとき電源を入れると開きます。
- 本機の電源オン時やズーム使用時（26ページ）など、レンズ部が動いているときは、レンズ部に触れないでください。

- 本機は、オートマクロAF機能を採用しております。ピント合わせに必要な被写体までの距離は、W側で約12 cm、T側で約50 cmです。
- 液晶画面内に出る枠はピント合わせを行う範囲を表します（AF測距枠、**別冊応用編** ➡ 8ページ）。

静止画を撮る

➡ シャッターボタンを半押しする

ピントが合うと「ピピッ」と音がします。液晶画面内のAE/AFロック表示が点滅から点灯に変わると、撮影可能です。（被写体によっては画面が一瞬止まる場合があります。）

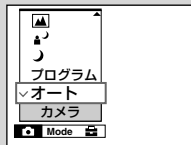
➡ 半押しのまま、シャッターボタンをさらに押し込む

「カシャッ」と音がして、撮影が完了し、静止画が“メモリースティックデュオ”に記録されます。記録された画像が約2秒間表示されます（オートレビュー、**別冊応用編** ➡ 70ページ）。

- シャッターボタンを離せば、いつでも撮影を中止できます。
- 「ピピッ」と音がしないときでも、このまま撮影することができますが、ピント合わせは正しく設定されていません。
- セットアップ画面の［お知らせブザー］を［切］にしていると音がしません（**別冊応用編** ➡ 71ページ）。

- バッテリーを使って撮影を行っているとき、本機の電源を入れたまま一定時間操作をしないと、バッテリーの消耗を防ぐため、自動的に電源が切れます（15ページ）。

モードスイッチの「📷」について

モードスイッチを「📷」にしたとき、メニューの[📷](カメラ)の設定により、使える機能が下記のように変わります。

静止画オート撮影[オート]

撮影に必要なピント合わせや露出、ホワイトバランスの調整を自動でおこなうため、簡単に撮影することができます。また、画質は[ファイン](**別冊応用編** ➡ 5ページ)、AF測距枠は[マルチAF]、測光モードは[マルチ]になります(**別冊応用編** ➡ 8、13ページ)。

メニューに表示されるのは、[📷](カメラ)、[Mode](撮影モード)と[🧰](セットアップ)のみになります。

静止画プログラム撮影[プログラム]

静止画オート撮影と同様に撮影に必要な調節を自動で行いますが、ピント合わせ等の調節を意図的に変えることもできます。また、メニューで撮影機能を設定できます(**別冊応用編** ➡ 4、67ページ)。

夜景モード[☽](33ページ)

夜景&人物モード[👤☽](33ページ)

風景モード[⛰](33ページ)

ソフトスナップモード[👥](33ページ)

スノーモード[⛄](34ページ)

ビーチモード[🏖](34ページ)

キャンドルモード[🕯](34ページ)

撮影方法を切り換えるには

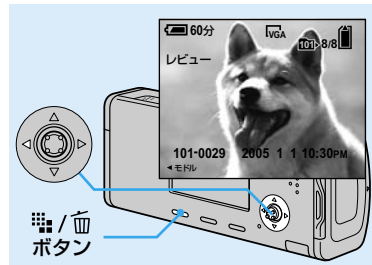
1. モードスイッチを「📷」にする。
2. MENUボタンを押す。
3. コントロールボタンを◀に動かして[📷](カメラ)を選ぶ。
4. コントロールボタンを▲/▼に動かして希望の撮影モードを選ぶ。

ピント合わせについて

ピントを合わせにくい被写体を撮影しようとしたときは、点滅していたAE/AFロック表示が遅い点滅に変わります。また、ロック時に「ピピッ」と音がしません。
自動ピント合わせ(AF=オートフォーカス)の場合は、下記の条件でピントが合いにくいことがあります。構図を変えるなどしてもう1度ピントを合わせてみてください。

- 被写体が遠くて暗い
- 被写体と背景のコントラストが弱い
- ガラス越しの被写体
- 高速で移動する被写体
- 鏡や発光物など反射、光沢のある被写体
- 点滅する被写体
- 逆光になっている被写体

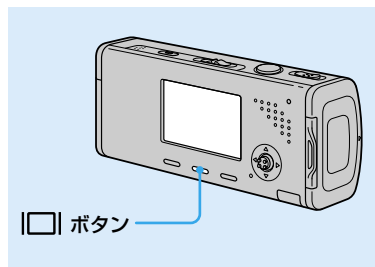
本機には、被写体の位置やその大きさによってピント合わせの位置を設定できる「AF測距枠」と、ピント合わせを開始/終了するタイミングを設定できる「AFモード」の2つの機能があります。詳しくは**別冊応用編** ➡ 8ページをご覧ください。

最後に撮影した画像を確かめる—クイックレビュー

通常の撮影モードに戻るには、シャッターボタンを軽く押すか、もう1度コントロールボタンを◀( )に動かします。

表示された画像を削除する

1 / (削除)ボタンを押す。
2 コントロールボタンを▲に動かして[削除]を選んで、中央の●を押す。
画像が削除されます。

- 表示直後は画像処理のために粗い画像が出ることがあります。

画面上の表示を切り換える

ボタンを押すたびに、表示が次の順で切り換わります。

ヒストグラム表示オン
（再生時には画像情報も表示されます）

↓

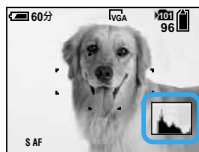
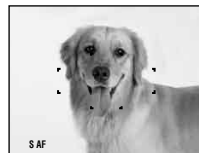
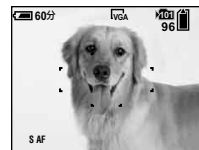
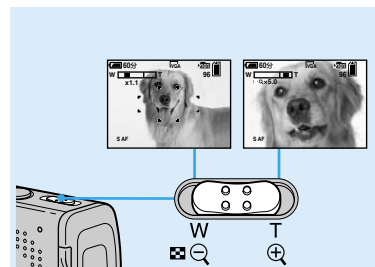
画面表示オフ

↓

バックライトオフ

↓

画面表示オン

- 表示項目について詳しくは、**別冊応用編** ➡ 81ページをご覧ください。
- ヒストグラムについて詳しくは、**別冊応用編** ➡ 11ページをご覧ください。
- バックライトオフでご使用になるとバッテリーを長持ちさせることができます。
- 動画時は、画面表示オフ→バックライトオフ→画面表示オンになります。
- ここで選んだ設定は、電源を切ったあとも保持されます。

ズームで撮る

➡ ズームレバーで希望の大きさにし、撮影する

ピントが合うための最短距離

レンズ先端からW側で約12 cm
レンズ先端からT側で約50 cm

- ズーム時はレンズ部が動きます。レンズ部に触れないようにご注意ください。
- 動画撮影中はズーム倍率を変更することはできません（**別冊応用編** ➡ 37ページ）。

ズームについて

本機には以下のズームが搭載されています。
拡大方法や拡大倍率は画像サイズやズームの種類によって異なるので、撮影目的に合わせて使い分けてください。

光学ズーム

フィルムカメラと同じようにレンズで望遠と広角の調整をします。
本機では3倍までの光学ズームができます。

デジタルズーム

本機のデジタルズームには下記の2種類があります。

スマートズーム

画質をほとんど劣化させずに拡大するので、光学ズームと同じような感覚で使うことができます。
スマートズームの最大倍率は、選択している画像サイズによって右の表のようになります。

プレシジョンデジタルズーム

すべての画像サイズにおいて最大6倍まで拡大します。画像の一部を切り出し拡大するため、画像は劣化します。

光学ズーム　　プレシジョンデジタルズーム

画像サイズ	スマートズームでの倍率	プレシジョンデジタルズームでの倍率
4M	— *	約6倍
3:2	— *	約6倍
3M	約3.4倍	約6倍
1M	約5.4倍	約6倍
VGA（Eメール）	約10倍	約6倍

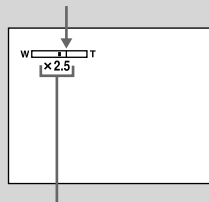
* 光学ズームで3倍になります。

- スマートズーム／プレシジョンデジタルズームの最大倍率は光学ズームの倍率を含みます。
- スマートズーム時に液晶画面を見ると画像が粗く見える場合がありますが、撮影される画像に影響ありません。
- マルチ連写時はスマートズームができません。

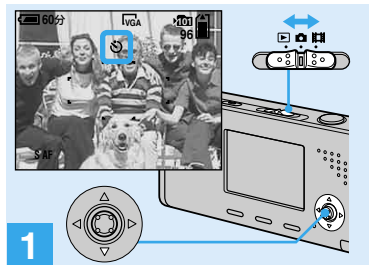
デジタルズームを設定するには

セットアップ画面の[デジタルズーム]を[スマート]または[プレシジョン]にしてください（**別冊応用編** ➡ 70ページ）。（お買い上げ時は[スマート]に設定されています。）

ズームボタンを押すと液晶画面に下記のようなズーム倍率が表示されます。

このラインよりW側は光学ズーム領域、T側はデジタルズーム領域

ズーム倍率表示

- ズームの種類によってズーム倍率表示が以下のように異なります。
  光学ズーム:×
  スマートズーム:SQ×
  プレシジョンデジタルズーム:PQ×
- デジタルズーム時はAF測距枠は表示されません。[ ]または[ ]が点滅し、中央付近の被写体を優先したAF動作になります。

セルフタイマーで撮る

➡ モードスイッチを「📷」にして、コントロールボタンを▼(⏲)に動かす

液晶画面に⏲(セルフタイマー)が拡大表示されます(**別冊応用編** ➡ 70ページ)。

- メニューが表示されているときは、最初にMENUボタンを押してメニューを消してください。
- モードスイッチを「🎞」の位置にしても操作できます。

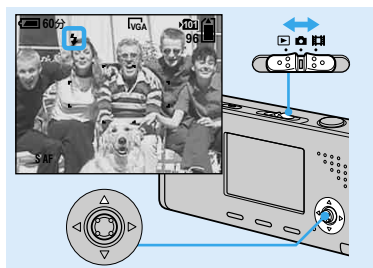
➡ 被写体をフレーム中央部におさめる。シャッターボタンを半押ししてピントを合わせ、さらに深く押し込む

セルフタイマーランプ(8ページ)が点滅し、「ピッピッピ」とビープ音が鳴ります。約10秒後に撮影されます。

セルフタイマーを途中で止めるには

もう1度コントロールボタンを▼(⏲)に動かしてください。液晶画面から⏲が消えます。

- カメラの前に立ってシャッターボタンを押すと、ピントや明るさが正しく設定されないことがあります。

フラッシュモードを選ぶ

➡ モードスイッチを「📷」にして、コントロールボタンを▲(⚡)方向に繰り返し動かし、フラッシュモードを選ぶ

選択したフラッシュモードが拡大表示されます(**別冊応用編** ➡ 70ページ)。フラッシュモードは下記の通りです。

表示なし(オート)：撮影状況の光量が足りないと判断した場合は自動的に発光します。お買い上げ時はオートに設定されています。

⚡(強制発光)：周囲の明るさに関係なく発光します。

⚡SL(スローシンクロ)：周囲の明るさに関係なく発光します。暗い場所ではシャッタースピードが遅くなるので、フラッシュが届かない背景も明るく写すことができます。

(発光禁止)：常に発光しません。

- メニューが表示されているときは、最初にMENUボタンを押してメニューを消してください。
- フラッシュ推奨撮影距離はW側で約0.2～2.0 m、T側で約0.5～1.5 mです([ISO]が[オート]のとき)。

- フラッシュは2回発光します。1回目のプリ発光でフラッシュ発光量の調節をして、2回目の本発光時に画像が撮影されます。
- フラッシュの発光量はメニューの[⚡±](フラッシュレベル)で変えることができます(**別冊応用編** ➡ 15ページ)。(メニューの[📷](カメラ)が[オート]のときは操作できません。)
- ⚡SL(スローシンクロ)または(発光禁止)のとき、暗い場所ではシャッタースピードが遅くなるので、三脚の使用をおすすめします。
- フラッシュを充電している間は、⚡/CHGランプが点灯します。充電が完了すると消灯し、フラッシュ撮影ができます。
- ここで選んだ設定は、電源を切ったあとも保持されます。

目が赤く写らないようにするには

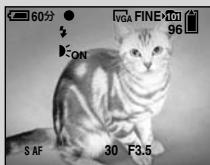
シャッターが切れる前にフラッシュが2回以上予備発光し、目が赤く写るのを軽減します。
セットアップ画面の［赤目軽減］を［入］にしてください（**別冊応用編** ➡ 70ページ）。液晶画面に👁が表示されます。

➡

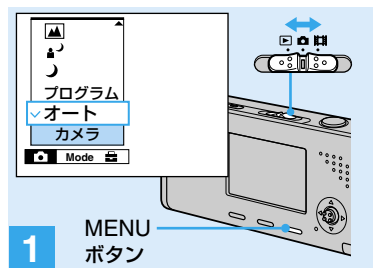
シャッターが切れるまで約1秒かかるので、カメラをしっかり構えて手ぶれを防いでください。
また、被写体が動かないように声をかけてください。

- 赤目軽減の効果には個人差があります。また被写体までの距離や予備発光を見ていないなどの条件によって、効果が表れにくいことがあります。
室内を明るくしたり被写体に近づくと、より効果があがります。

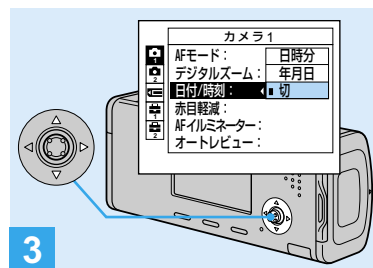
AFイルミネーターを使って撮影する

暗い場所でフォーカスを合わせるための補助光です。
撮影時にON が表示され、シャッターボタンを半押ししてフォーカスがロックされるまでの間だけ自動的に赤く発光します。

この機能を使わないときは、セットアップ画面の［AFイルミネーター］を［切］にしてください（**別冊応用編** ➡ 70ページ）。

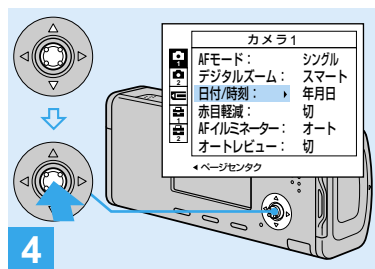
- AFイルミネーターを発光しても、充分な光が被写体に届かない場合（推奨距離：約2.0 m（W）まで／約1.5 m（T）まで）やコントラストが弱い被写体を撮影する場合、フォーカスは合いません。
- AFイルミネーターの光が画像の中心からずれる場合がありますが、光が被写体に届いていれば、フォーカスは合います。
- AF測距枠は表示されません。［ ］または［ ］が点滅し、中央付近の被写体を優先したAF動作になります。
- メニューの［ ］（カメラ）で［オート］、［プログラム］、［ ］（夜景＆人物モード）、［ ］（ソフトスナップモード）、［ ］（スノーモード）、［ ］（ビーチモード）、［ ］（キャンドルモード）のいずれかを選んだときのみAFイルミネーターが発光します。
- AFイルミネーターは明るい光です。安全には問題ありませんが、至近距離で直接人の目に当たらないようにお使いください。

日付や時刻を入れて撮る

➡ モードスイッチを「📷」にし、MENUボタンを押す

メニューが表示されます。

➡ コントロールボタンを▶に動かしてメニューの🧰の位置に進み、もう1度▶に動かす

セットアップ画面が表示されます。

➡ コントロールボタンを▲に動かして[📷](カメラ1)を選び、▶に動かす。
次に▲/▼に動かして[日付／時刻]を選び、▶に動かす

- 1度挿入した日付や時刻は、あとで消去できませんのでご注意ください。
- マルチ連写モードでは、日付・時刻の挿入はできません。
- 撮影時は実際の日付や時刻は表示されず、液晶画面にDATEが表示されます。実際の日付や時刻は、再生時に画像右下に赤色で表示されます。
- モードスイッチを「🎞」、「▶」の位置にしても操作できます。

➡ **コントロールボタンを▲/▼に動かして挿入するデータの種類を選び、中央の●を押す**

日時分：画像に撮影日時分を入れる
年月日：画像に撮影年月日を入れる
切：画像に日付・時刻は記録されない

設定が終わったら、MENUボタンを押し、セットアップ画面を消して撮影してください。

- [年月日]を選んだ場合、「日付／時刻を合わせる」(16ページ)で選んだ表示順の年月日が挿入されます。
- ここで選んだ設定は、電源を切ったあとも保持されます。

場面に合わせて撮る—シーンセレクション

目的のモードを選んでシャッターボタンを押すと、効果を高めて撮影することができます。

夜景モード

暗い雰囲気を損なわずに、遠くの夜景を撮影することができます。

- シャッタースピードが遅くなるので、三脚のご使用をおすすめします。

夜景＆人物モード

夜景と手前の人物を同時に撮影するときに使います。夜景の雰囲気を損なわずに、手前の人物を際立たせた画像を撮影することができます。

- シャッタースピードが遅くなるので、三脚のご使用をおすすめします。

風景モード

遠景にピントを合わせることで、遠くの風景などを撮影しやすくします。

ソフトスナップモード

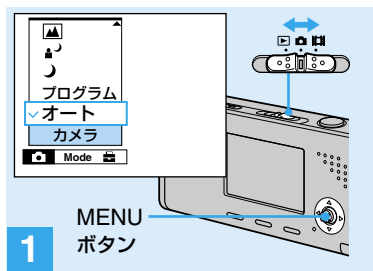
人物の肌の色を明るく暖かい色調できれいに撮影できます。また、ソフトフォーカス効果があるため、人物や花などの画像を優しい雰囲気に仕上げることができます。

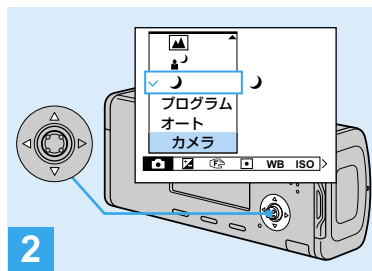
場面に合わせて撮る—シーンセレクション(つづき)

スノーモード
雪景色などの画面全体が白くなるような場所で撮影する場合、画面が沈みがちになるのを防ぎ、明るくなるようにします。

ビーチモード
海や湖畔などの場所で撮影するとき、水の青さを鮮やかに記録します。

キャンドルモード
パーティーやキャンドルサービスのときなど、キャンドルライトの雰囲気を損なわずに撮影することができます。

- シャッタースピードが遅くなるので、三脚のご使用をおすすめします。

➡ **モードスイッチを「」にして、MENUボタンを押す**

メニューが表示されます。

➡ **コントロールボタンを◀に動かして[ ](カメラ)を選び、▲/▼に動かして希望のモードを選ぶ**

シーンセレクションを解除するには

コントロールボタンを▲/▼に動かして[オート]または[プログラム]を選んでください。

- ここで選んだ設定は、電源を切ったあとも保持されます。

シーンセレクション撮影について

シーンセレクションで撮影する場合、撮影シーンに合わせて最適な設定になるようにフラッシュなどの機能の組み合わせが決まっています。各撮影モードの機能設定については、下記の表をご覧ください。

機能 / 撮影モード	フラッシュモード	AF測距枠	ホワイトバランス	フラッシュレベル	連写／マルチ連写
		○	○	—	—
	SL	○	オート	○	—
	/	○	○	○	○
	○	○	○	○	○
	/	○	○	○	○
	/	○	○	○	○
		中央重点AF		—	—

- ○はお好みの設定ができる機能です。

NRスローシャッター

撮影した画像からノイズを低減し、きれいな画像を得る機能です。シャッタースピードが1/6秒またはそれより遅い設定になると、自動的にNRスローシャッター機能が働き、シャッタースピード表示の前に「NR」が表示されます。

シャッターボタンを深く押し込む。

↓

このとき画面は黒くなります。

↓

「処理中」の表示が消えると、画像が記録されます。

- 「撮影中」と表示が出ているときは、本機を動かさないでください。手ぶれを防ぐために三脚のご使用をおすすめします。
- シャッタースピードが遅く設定されているときは、処理に時間がかかることがあります。

本機の液晶画面で見る

シングル画面

インデックス画面

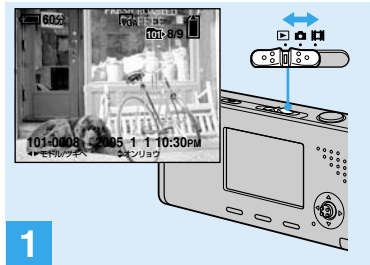
撮影した画像を本機の液晶画面ですぐに見ることができます。表示方法は下記の2種類から選ぶことができます。

シングル画面
1枚の画像を画面全体で見ることができます。

インデックス画面
9枚の画像を同時に見ることができます。

- 動画の再生について詳しくは、**別冊応用編** ➡ 38ページをご覧ください。
- 表示項目について詳しくは、**別冊応用編** ➡ 83ページをご覧ください。

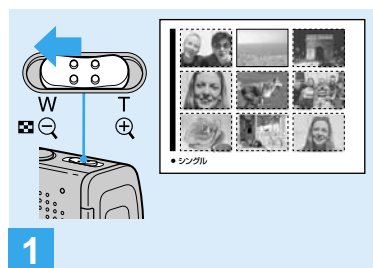
シングル画面で見る

1

➡ モードスイッチを「▶」にして、電源を入れる

選択されている記録フォルダ(**別冊応用編** ➡ 20ページ)の最新の画像が表示されます。

- 表示直後は画像処理のために粗い画像が出ることがあります。

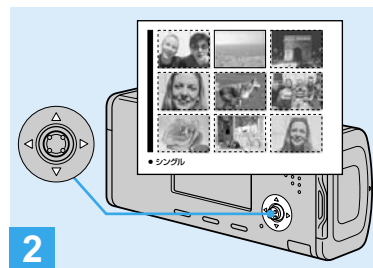
➡ コントロールボタンを◀/▶に動かして静止画を選ぶ

◀：前の画像が表示されます。
▶：次の画像が表示されます。

インデックス画面で見る

➡ ▦（インデックス）レバーをW側にずらす

インデックス画面に切り換わります。

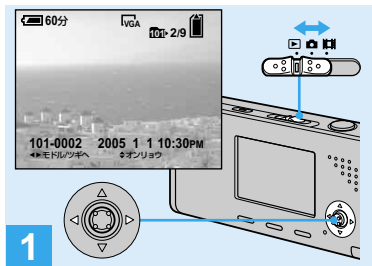
次（前）のインデックス画面を表示するには

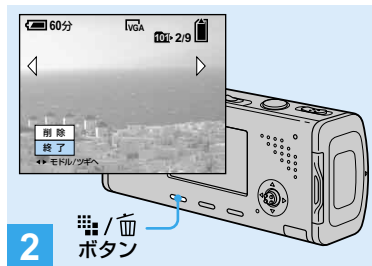
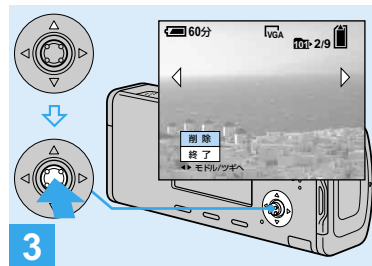
コントロールボタンを▲/▼/◀/▶に動かして、黄色い枠を上下左右に動かしてください。

➡ コントロールボタンを▲/▼/◀/▶に動かして、静止画を選ぶ

黄色い枠が付いている画像が選択されています。

シングル画面に戻るには

▦（インデックス）レバーをT側にずらす、またはコントロールボタンの中央の●を押してください。

静止画を削除する

➡ モードスイッチを「▶」にして、電源を入れる。
コントロールボタンを◀/▶に動かして削除したい画像を表示する

➡ /🗑(削除)ボタンを押す

この時点ではまだ削除されていません。

➡ コントロールボタンを▲に動かして[削除]を選び、中央の●を押す

「アクセス中」という表示が出て、画像が削除されます。

続けて他の画像も削除するには

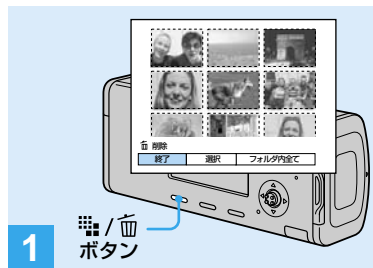
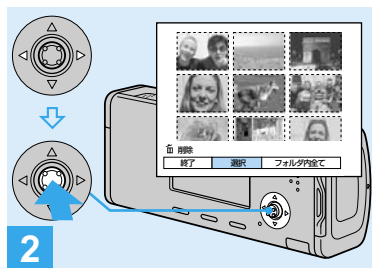
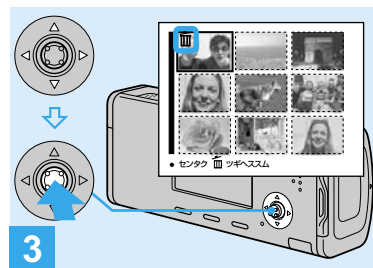
コントロールボタンを◀/▶に動かして削除したい画像を表示してください。次に▲に動かして[削除]を選び、中央の●を押してください。

削除を中止するには

コントロールボタンを▼に動かして[終了]を選び、中央の●を押してください。

- 1度削除した画像は元に戻せないのでご注意ください。

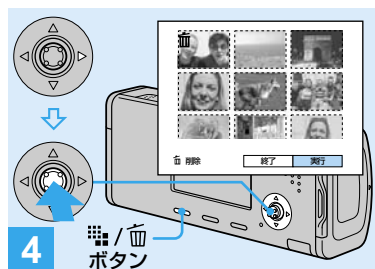
- プロテクトされている画像(**別冊応用編** ➡ 25ページ)は削除できません。

インデックス画面で削除する

➡ インデックス画面（39ページ）で、/ （削除）ボタンを押す

➡ コントロールボタンを◀/▶に動かして［選択］を選び、中央の●を押す

➡ 削除したい画像をコントロールボタンを▲/▼/◀/▶に動かして選び、中央の●を押す

選んだ画像に（削除）マークが付きます。この時点ではまだ削除されていません。削除したいすべての画像にマークを付けてください。

静止画を削除する

- 1度削除した画像は元に戻せないのでご注意ください。

- 選択を取り消すには、もう1度取り消したい画像を選んで、中央の●を押してください。マークが消えます。

➡ /（削除）ボタンを押し、コントロールボタンを▶に動かして［実行］を選び、中央の●を押す

「アクセス中」という表示が出て、マークを付けた画像が削除されます。

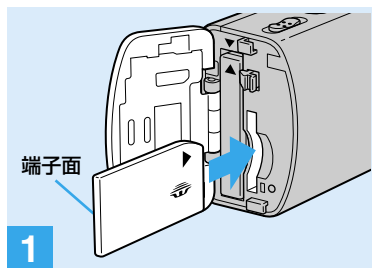
削除を中止するには

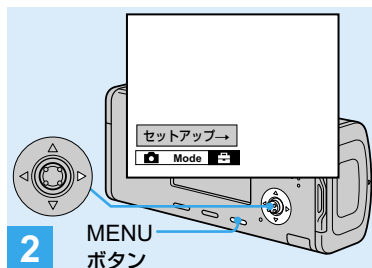
コントロールボタンを◀に動かして［終了］を選び、中央の●を押してください。

フォルダ内のすべての画像を削除するには

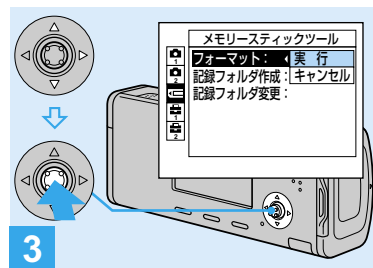
手順2で、コントロールボタンを▶に動かして［フォルダ内全て］を選び、中央の●を押してください。次に［実行］を選び、中央の●を押してください。プロテクトされていないすべての画像が削除されます。
削除を中止するときは［キャンセル］を選び、中央の●を押してください。

- 動画も削除されます（**別冊応用編** ➡ 39ページ）。

“メモリースティック　デュオ”をフォーマットする

➡ フォーマットしたい“メモリースティック　デュオ”を入れる

- 「フォーマット」とは、“メモリースティック　デュオ”に画像を記録できるようにする作業のことで、「初期化」とも言います。
- 本機に付属、または市販の“メモリースティック　デュオ”はすでにフォーマットされており、すぐにお使いになれます。
- **フォーマットすると、プロテクトした画像を含め、“メモリースティック　デュオ”内のすべてのデータが消去され元に戻せませんので、ご注意ください。**

➡ 電源を入れ、MENUボタンを押す。
コントロールボタンを▶に動かしてメニューの🧰の位置に進み、もう1度▶に動かす

セットアップ画面が表示されます。

- モードスイッチがどの位置でも操作できます。

➡ コントロールボタンを▲/▼に動かして[📇]（メモリースティックツール）を選ぶ。
▶に動かして[フォーマット]を選ぶ。
次に▶/▲に動かして[実行]を選び、中央の●を押す

フォーマットを中止するには

コントロールボタンを▼に動かして[キャンセル]を選び、中央の●を押してください。

➡ **コントロールボタンを▲に動かして[実行]を選び、中央の●を押す**

「フォーマット中」という表示が消えると、フォーマットが完了します。

静止画をパソコンに取り込むまで

Windows XPは手順❷からはじめます

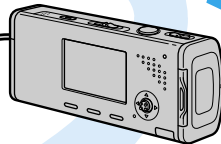
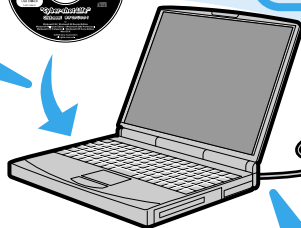
❶ Windows 98/98SE/2000/Meのみ

USBドライバをインストールする（47ページ）

2回目以降、画像を取り込むときは不要です。

❷ 本機とパソコンを準備する（50ページ）

パソコンとの接続方法や最新サポート情報はデジタルイメージングカスタマーサポートのホームページをご覧ください。

http://www.sony.co.jp/support-di/

❸ USBケーブルで接続する（51ページ）

❹ 画像ファイルをパソコンにコピーする（52、56ページ）

❺ パソコンで画像を見る（58ページ）

Macintoshについては
Mac OS 9.1/9.2、Mac OS X（v10.0/v10.1/v10.2/v10.3）は62ページをご覧ください。

パソコンの推奨使用環境

■ Windowsパソコン環境

OS: Microsoft Windows 98/
Windows 98SE/
Windows 2000 Professional/
Windows Millennium Edition/
Windows XP Home Edition/
Windows XP Professional
工場出荷時にインストールされていることが必要です。
上記のOSでもアップグレードされた場合や、マルチブート環境の場合は、動作保証いたしません。

CPU: MMX Pentium 200 MHz以上

USB端子: 標準装備であること

ディスプレイ: 800×600ドット以上、High Color(16bitカラー、65000色)以上

- 本機はHi-Speed USB(USB2.0準拠)に対応しています。
- Hi-Speed USB(USB2.0準拠)に対応したUSBインターフェースに接続すると、高速な転送(high-speed転送)が行えます。

■ Macintosh環境

OS: Mac OS 9.1/9.2、Mac OS X (v10.0/v10.1/v10.2/v10.3)
工場出荷時にインストールされていることが必要です。

USB端子: 標準装備であること

- 1台のパソコンで2台以上のUSB機器を接続している場合、同時に使用するUSB機器によっては、本機が動作しないことがあります。
- USBハブ経由でご使用の場合は、動作保証いたしません。
- 推奨環境のすべてのパソコンについて動作を保証するものではありません。

USBモードについて

パソコンと接続するときのUSBモードには[標準]と[PTP]*の2通りの接続方法があり、お買い上げ時は[標準]に設定されています。
ここでは主に[標準]での使いかたを説明します。

* PTP接続については、**別冊応用編** ➡ 72ページをご覧ください。

パソコンとの通信について

パソコンがサスペンド・レジューム機能、またはスリープ機能から復帰しても、通信状態が復帰できないことがあります。

USB端子がないパソコンをお使いの場合は

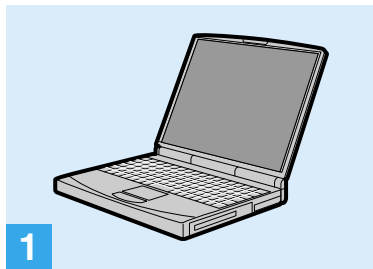
USB端子も“メモリースティック”スロットもないパソコンをお使いの場合は、アクセサリーを使うことにより画像を取り込めます。詳しくは、デジタルイメージングカスタマーサポートのホームページをご覧ください。
http://www.sony.co.jp/support-di/

❶ USBドライバをインストールする 98 98SE 2000 Me

（ XP 50ページ）

➡ パソコンの電源を入れる

この時点では、本機をパソコンに接続しないでください。

- OSの種類によって、画面表示や操作方法が異なることがあります。
- **パソコンを使用中の場合には、使用中のソフトウェアをすべて終了させてください。**
- Windows 2000をお使いの方は、Administrator（管理者権限）でログオンしてください。

➡ CD-ROM（付属）を、パソコンのCD-ROMドライブにセットする

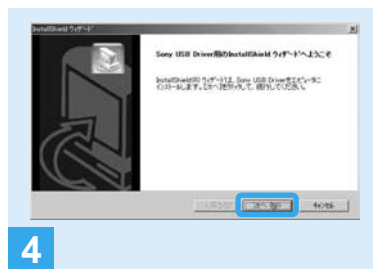
インストールメニュー画面が表示されます。
インストールメニュー画面が表示されないときは、デスクトップ画面上の （マイ コンピュータ）→ （PICTUREPACKAGE）の順にダブルクリックしてください。

➡ 「USB Driver」の部分に （ポインタ）を動かし、クリックする

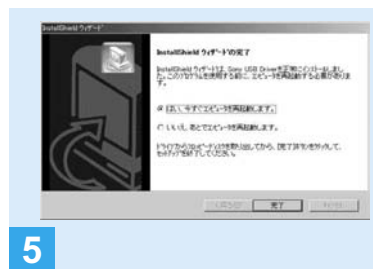
「Sony USB Driver用のInstallShieldウィザードへようこそ」画面が表示されます。

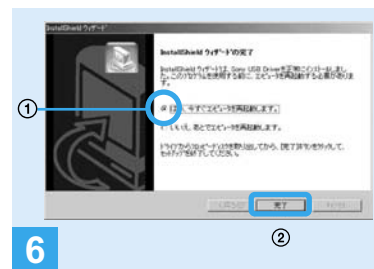
- 付属の画像活用ソフト「Picture Package」もご使用になる場合は、［Picture Package］をクリックすると「Picture Package」のインストールと同時にUSBドライバのインストールができます（**別冊応用編** ➡ 42ページ）。

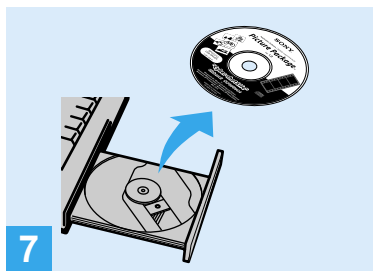
❶ *USBドライバをインストールする(つづき)*

4

➡ [次へ]をクリックする

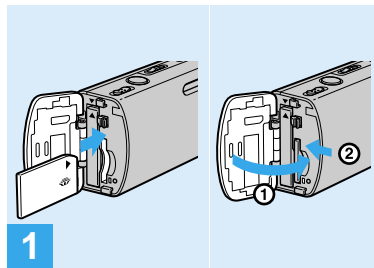
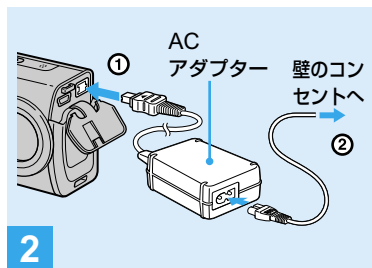
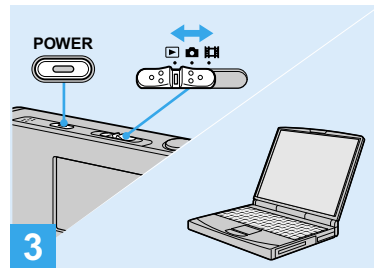
USBドライバのインストールが始まります。

5

➡ インストールが終了すると「InstallShieldウィザードの完了」画面が表示される

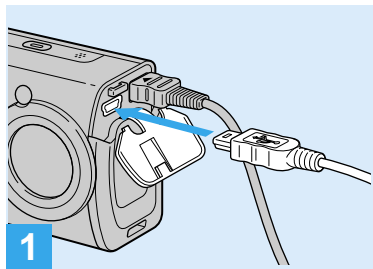
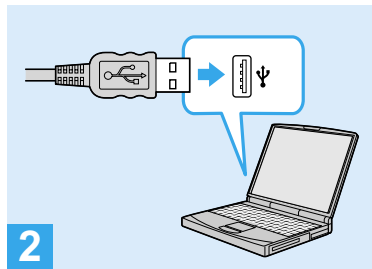
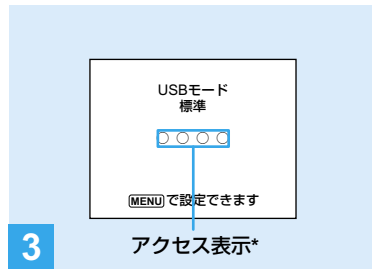
6

➡ [はい、今すぐコンピュータを再起動します。]の◯をクリックして⦿にし、[完了]をクリックする

パソコンが再起動します。

➡ 再起動後に、パソコンからCD-ROMを取り出す

本機とパソコンでUSB接続ができるようになります。

② 本機とパソコンを準備する 98 98SE 2000 Me XP

➡ 本機に画像を記録した"メモリースティック　デュオ"を入れて、バッテリー／"メモリースティック　デュオ"カバーを閉める

➡ 端子カバーを開け、本機とACアダプター（付属）をつなぎ、壁のコンセントにつなぐ

➡ モードスイッチを▶にする。本機とパソコンの電源を入れる

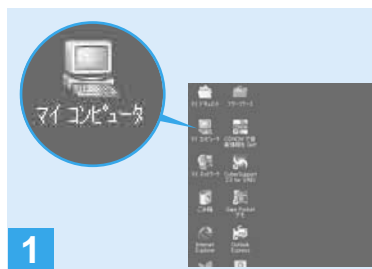
- バッテリーを使用して画像ファイルをコピーすると、バッテリー切れのためデータを転送できなかったり、データを破損する恐れがあります。またUSBケーブルからは電源供給されないので、ACアダプターのご使用をおすすめします。

❸ USBケーブルで接続する 98 98SE 2000 Me XP

➡ USBケーブル（付属）をUSB端子につなぐ

➡ USBケーブルをパソコンのUSB端子につなぐ

本機の液晶画面に「USBモード 標準」と表示されます。
初回接続時のみ、パソコンが本機を認識するための作業を自動的に行います。作業が終わるまでお待ちください。

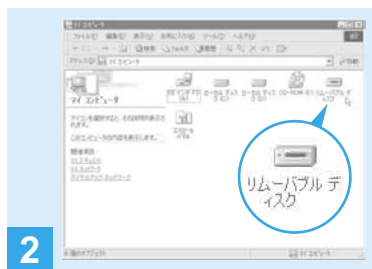
* 通信中はアクセス表示が赤色になります。白色になるまで、パソコンの操作をしないでください。

- Windows XPをお使いの場合は、パソコンの画面に自動再生ウィザードが表示されます。55ページにお進みください。

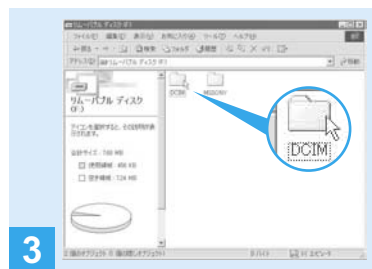
- 「USBモード 標準」と表示されないときは、MENUボタンを押して[USB接続]を選び、[標準]に設定してください。

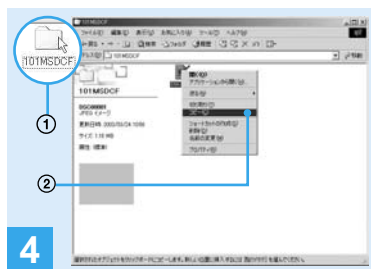
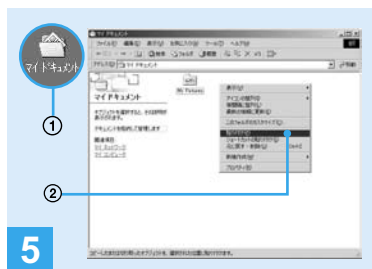
④ 画像ファイルをパソコンにコピーする 98 98SE 2000 Me （XP 55～57ページ）

➡ [マイ コンピュータ]をダブルクリックする

「マイ コンピュータ」画面が表示されます。

- ここでは、「マイドキュメント」というフォルダに画像をコピーします。

➡ [リムーバブル ディスク]をダブルクリックする

本機内の“メモリースティック　デュオ”の内容が表示されます。

- リムーバブル ディスクが表示されていないときは、54ページをご覧ください。

➡ [DCIM]をダブルクリックする

新しくフォルダを作成していない場合は、「101MSDCF」フォルダのみ表示されます。

➡ 取り込みたい画像の入っているフォルダをダブルクリックする。
画像ファイルを右クリックしてメニューを表示し、[コピー]を選ぶ

➡ [マイドキュメント]フォルダをダブルクリックする。
右クリックでメニューを表示し、[貼り付け]を選ぶ

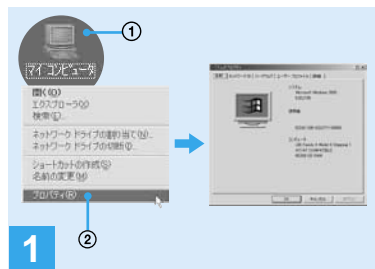
「マイドキュメント」フォルダに画像ファイルがコピーされます。

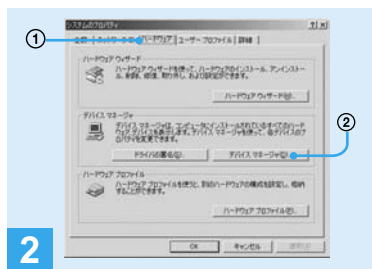
コピー先に同じファイル名の画像があるときは

元の画像を上書きしてもよいかを確認するメッセージが表示されます。上書きすると、元のファイルデータは消えます。

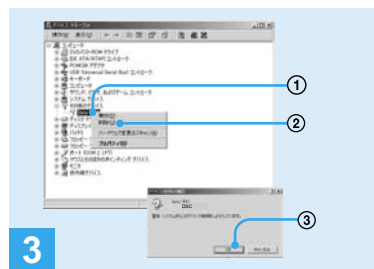
ファイル名を変更する場合

画像ファイルを上書きしないでパソコンにコピーする場合は、ファイル名を希望の名称に変更してからコピーします。ファイル名を変更すると本機で再生できなくなる場合があります。本機で再生する場合は、61ページの操作を行ってください。

「リムーバブル ディスク」が表示されないときは

➡ [マイ コンピュータ]を右クリックしてメニューを表示し、[プロパティ]をクリックする

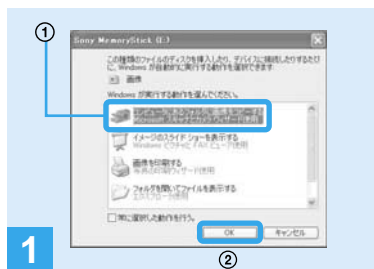
「システムのプロパティ」画面が表示されます。

➡ 「デバイス マネージャ」を表示する

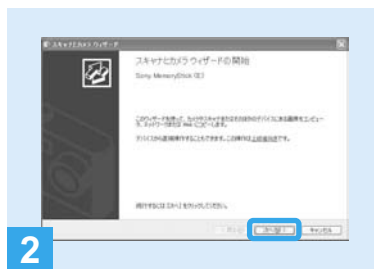
① [ハードウェア]をクリックする。
② [デバイス マネージャ]をクリックする。

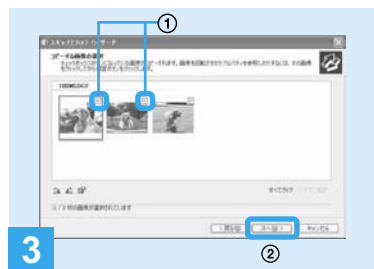
• Windows 98、98SE、Meをお使いの場合、①は不要です。[デバイス マネージャ]タブをクリックしてください。

➡ 「Sony DSC」が表示されていたら削除する

① 「Sony DSC」を右クリックする。
② [削除]をクリックする。
「デバイス削除の確認」画面が表示されます。
③ [OK]をクリックする。
デバイスが削除されます。

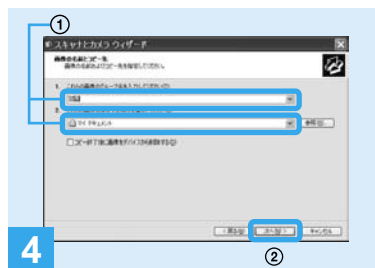
デバイスを削除したあと、CD-ROMのUSBドライバをインストールし直してください(47ページ)。

❹ 画像ファイルをパソコンにコピーする XP

➡ 51ページの手順でUSB接続を行うと、自動再生ウィザードが起動する。
[コンピュータにあるフォルダに画像をコピーする。Microsoftスキャナとカメラウィザード使用]をクリックし、[OK]をクリックする

「スキャナとカメラ ウィザードの開始」画面が表示されます。

➡ [次へ]をクリックする

本機の“メモリースティック デュオ”に記録されている画像が表示されます。

➡ パソコンにコピーしない画像の ☑ をクリックして ☐ にし、[次へ]をクリックする

「画像の名前とコピー先」画面が表示されます。

❹ 画像ファイルをパソコンにコピーする(つづき)

➡ 画像の名前とコピー先を指定し、[次へ]をクリックする

画像のコピーが始まります。コピーが終了すると、「そのほかのオプション」画面が表示されます。

- ここでは、画像のコピー先を「マイドキュメント」にしています。

➡ [作業を終了する]を選び、[次へ]をクリックする

「スキャナとカメラ ウィザードの完了」画面が表示されます。

➡ [完了]をクリックする

ウィザード画面が閉じます。

- 続けて画像をコピーしたい場合は、57ページの❗の手順に従ってUSBケーブルを1度抜き差しして、手順❶から行ってください。

USBケーブルを抜く、"メモリースティック　デュオ"を取り出す、または本機の電源を切るときは

Windows 2000/Me/XPをお使いの場合は

1 タスクトレイの をダブルクリックする。

ここをダブルクリック

2 (Sony DSC)をクリックし、[停止]をクリックする。

3 取りはずすドライブを確認して、[OK]をクリックする。

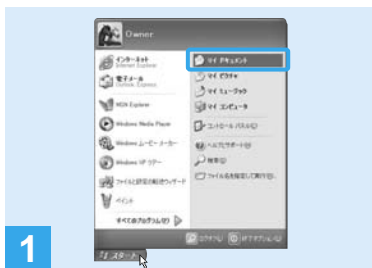
4 [OK]をクリックする。
Windows XPをお使いの方は、手順**4**は不要です。

5 USBケーブルを抜く、"メモリースティック　デュオ"を取り出す、または本機の電源を切る。

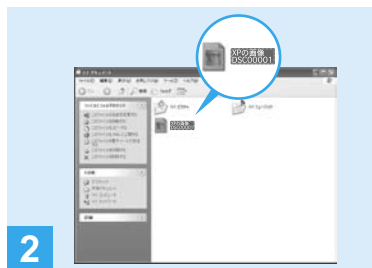
Windows 98/98SEをお使いの場合は

アクセス表示(51ページ)が白くなっていることを確認して、手順**5**のみ行ってください。

❺ パソコンで画像を見る 98 2000 XP 98SE Me

1

➡ [スタート]→[マイドキュメント]をクリックする

「マイドキュメント」フォルダの内容が表示されます。

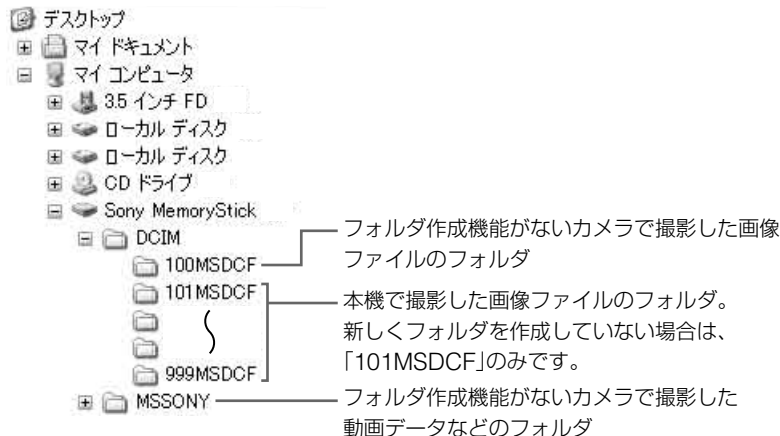
2

➡ 見たい画像ファイルをダブルクリックする

画像が開きます。

- 52、55 ページで、「マイドキュメント」フォルダに画像をコピーした場合の説明です。
- Windows XP 以外をお使いの場合は、デスクトップ画面上の［マイドキュメント］をダブルクリックしてください。

画像ファイルの保存先とファイル名

本機で撮影した画像ファイルは、"メモリースティック　デュオ"内のフォルダにまとめられています。

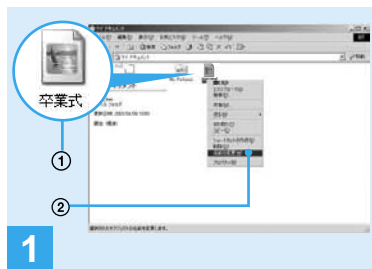
Windows XPで見たときの例

- 「100MSDCF」または「MSSONY」のフォルダには本機で画像を記録できません。再生のみ可能です。
- フォルダについては、**別冊応用編** ➡ 6、20ページをご覧ください。

画像ファイルの保存先とファイル名（つづき）

フォルダ名	ファイル名	ファイルの内容
101MSDCF ～ 999MSDCF	DSC0□□□□.JPG	• 以下のモードで撮影した静止画ファイル ー通常撮影モード（22ページ） ー連写モード（**別冊応用編** ➡ 16ページ） ーマルチ連写モード（**別冊応用編** ➡ 17ページ）
	MOV0□□□□.MPG	• 動画ファイル（**別冊応用編** ➡ 37ページ）
	MOV0□□□□.THM	• 動画を撮影したとき同時に撮影されるインデックス画像ファイル（**別冊応用編** ➡ 37ページ）

- □□□□には0001から9999までの半角数字が入ります。
- 動画モードで撮影した動画ファイルとそのインデックス画像ファイルの数字部分は同じになります。

パソコンにコピーした画像ファイルを本機で見るには

パソコンにコピーした画像ファイルが“メモリースティック　デュオ”内に残っていない場合、本機でもう1度その画像ファイルを見るには、パソコンにある画像ファイルを“メモリースティック　デュオ”にコピーしてから本機で再生します。

➡ 画像ファイルを右クリックし、[名前の変更]をクリックする。ファイル名を「DSC0□□□□」に変更する

□□□□には、0001から9999までの半角数字を入れます。

2

DSC□□□□

➡ ファイルを“メモリースティック　デュオ”内のフォルダにコピーする

① 画像ファイルを右クリックし、[コピー]をクリックする。

② [マイ コンピュータ]内の[リムーバブル ディスク]または[Sony MemoryStick]から[DCIM]フォルダを選びダブルクリックする。

③ [DCIM]フォルダ内の[□□□MSDCF]フォルダを右クリックし、[貼り付け]をクリックする。
□□□には、100から999までの半角数字が入ります。

- 本機設定のファイル名を変更していない場合、手順1は必要ありません。
- 画像サイズによっては再生できない画像があります。
- パソコンで画像を加工したファイルや、本機以外で撮影した画像は本機での再生を保証しません。
- 上書きの警告が出た場合は、手順1で別の数字を入れ直してください。
- フォルダがない場合は、まず本機でフォルダを作成してから画像ファイルのコピーを行ってください(**別冊応用編** ➡ 6ページ)。

- パソコンの設定によっては、拡張子が表示されることがあります。静止画の拡張子は「JPG」、動画の拡張子は「MPG」です。拡張子は変更しないでください。

Macintoshをお使いの場合 Mac OS 9 Mac OS X

Mac OS 9.1/9.2、Mac OS X (v10.0/v10.1/v10.2/v10.3)でご使用になれます。

❶本機とパソコンを準備する

詳しくは、50ページをご覧ください。

❷USBケーブルで接続する

詳しくは、51ページをご覧ください。

USBケーブルを抜く、"メモリースティック　デュオ"を取り出す、または本機の電源を切るときは

"メモリースティック"またはドライブのアイコンをゴミ箱にドラッグ＆ドロップしてから、USBケーブルを抜くなどの作業を行ってください。

- Mac OS X v10.0をお使いの場合は、パソコンの電源を切ってからUSBケーブルを抜くなどの作業を行ってください。

❸画像ファイルをパソコンにコピーする

1 デスクトップ画面上の新しく認識されたアイコンをダブルクリックする。
本機内の"メモリースティック　デュオ"の内容が表示されます。
2 [DCIM]をダブルクリックする。
3 取り込みたい画像の入ったフォルダをダブルクリックする。
4 画像ファイルをハードディスクアイコンにドラッグ＆ドロップする。
ハードディスクに画像ファイルがコピーされます。

- 画像ファイルの保存先とファイル名について詳しくは、59、60ページをご覧ください。

❹パソコンで画像を見る

1 ハードディスクアイコンをダブルクリックする。
2 画像ファイルをフォルダの中から選んでダブルクリックする。
画像が開きます。

索引

数字の前に「応」がついているページは別冊応用編のページです。

た

ち

て

と

は

ひ

ふ

へ

ほ

ま

め

も

や

り

索引

製品についてのサポートのご案内

より詳しい内容は、別冊「**サイバーショット応用編／困ったときは**」をご覧ください。

WEBにて製品サポート情報をお知らせしています。
http://www.sony.co.jp/support-di/

電話でのお問い合わせ

テクニカルインフォメーションセンター　【電話番号】**0564-62-4979**

<電話受付時間>

月～金曜日　午前9時～午後5時（ただし、年末、年始、祝日を除く）

お電話の際は、本機をお手元にご用意ください。

修理のお申し込み

指定宅配便での修理品のお引取り、修理後の製品のお届けまでを一括して行います。
テクニカルインフォメーションセンターへお電話いただくか、WEBサイトをご覧ください。
http://www.sony.co.jp/di-repair/

カスタマー登録をしていただくと、修理の際の状況・日程をWEB上でご確認できるなどのサポートを受けられます。
詳しくは同梱のチラシ「カスタマー登録のご案内」もしくはご登録WEBサイトをご覧ください。
http://www.sony.co.jp/di-regi/

この説明書は100%古紙再生紙とVOC（揮発性有機化合物）ゼロ植物油型インキを使用しています。

ソニー株式会社　〒141-0001　東京都品川区北品川6-7-35

http://www.sony.co.jp/

サイバーショットオフィシャルWEBサイト
http://www.sony.co.jp/cyber-shot/
サイバーショット、マビカの最新情報を掲載。
撮影方法やアクセサリー情報、パソコン接続に関する情報を掲載しています。
英語の取扱説明書のダウンロードサービスも実施しています。
English manual download service is available.

Printed in Japan